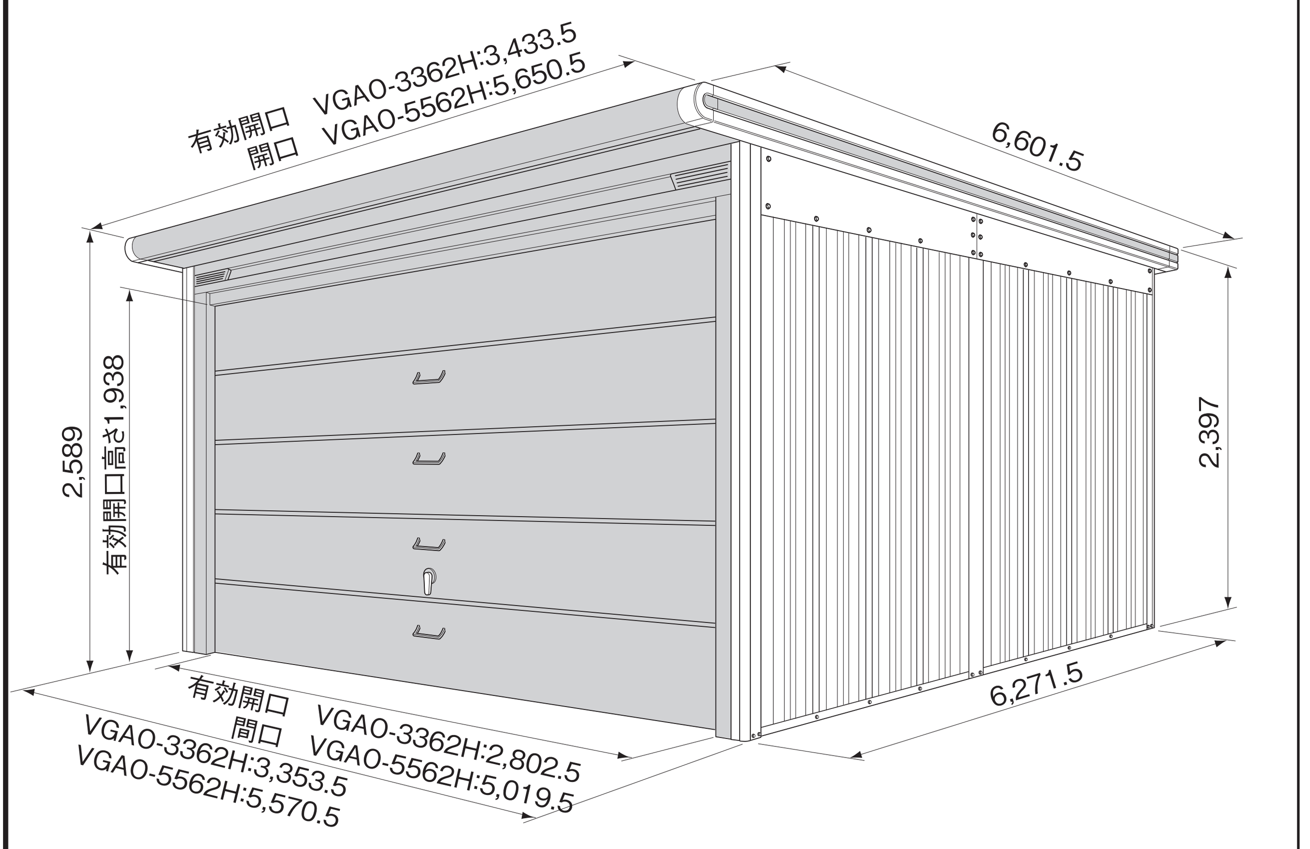
Raviege（オーバースライディングタイプ）

ヨドガレージ・ラヴィージュ

組立説明書

VGBO-3362H　VGBO-5562H　VGBO-8862H（3362H+5562H）

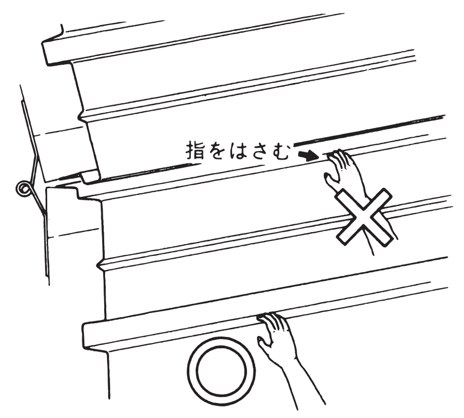
この組立説明書は、ガレージを安全に組立てていただくために、重要な事項を記載しています。施工前に必ずお読みください。
また、部品箱の中の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。
本書は、8862Hタイプで向かって左側を一台用（3362H）、右側を2台用（5562H）連棟させる形で記載しておりますが、単棟タイプ、3連棟以上も手順は同様です。



〈組立にあたって〉

1. 基礎の水平が出ていないと建付けが悪くなりますので、必ず水平を確かめてください。
2. 部品の共通化のために、実際には使用しない穴があいている部品がありますので、説明書に従って組立してください。
3. 開口部オーバースタイダーは別途工事ですので、梱包は開梱せずに、雨のかからない場所に保管しておいてください。
4. オプションのリモコン式の場合、桁中の中央から後に600m/mの位置までアース孔付2口コンセント（100V）を配線しておいてください。

一次電源の配線（屋外からガレージ内への配線）は、電気工事免許が必要となりますので必ず最寄りの電気工事店へ依頼してください。



●オーバースライダー開閉の際には、パネルのかみ合わせ部に手を掛けて開閉しますと、手をはさむおそれがありますので注意して開閉するよう説明してください。

設置場所の制限

⚠注意
●大屋根からの雨水や、雪が直接ヨドガレージの屋根に落ちる場所には設置しないでください。

⚠注意
●崖のふち、風当りの強い場所等安全の確認できない場所には設置しないでください。

⚠注意
●給湯器の前には設置しないでください。

施工全般

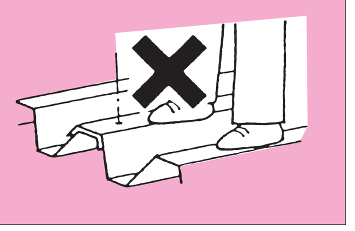
⚠注意　施工の際には、次の点を必ず守ってください。

●ブロックでの基礎は絶対におやめください。強度確保のため、鉄筋入りの布基礎としてください。
●施工前に必ず布基礎の水平を確認してください。水平がでていないと、ガレージの建付けが悪くなります。
●強風時や雨天時の組立てはおやめください。
●高所での組立てとなりますので、足場板、安全帯などを使用して、作業時の安全には、十分注意してください。
●重量物・長尺物は運搬・据付の際に複数人数で行い、振り回したり、落としたりしないよう、注意してください。
●安全のため、手袋をして組立てを行なってください。
●ボルトは口に入れないでください。

屋根の施工

⚠注意
●屋根に上がる場合は、転倒、転落等に十分注意してください。

⚠注意
●屋根の重ね部を締結するまで、重ね部には絶対に乗らないでください。



梱包組合せ表

基本棟

梱包名	梱包番号	3362H	5562H
部品	VG3−0104	1	
	VG3−0105		1
柱	VG3−0202	1	1
	VG3−0222	1	1
	VG3−0233		1
袖柱	VG3−0281	1	1
間柱	VG3−0312	1	1
	VG3−0342	1	
	VG3−0332		2
上枠	VG3−0404	1	1
梁	VG3−5434		1
前後材	VG3−0503		1
	VG3−0504	1	
	VG3−0512		1
左右材	VG3−0604	1	1
	VG3−0614	1	1
桁前	VG3−0744	1	
	VG3−0745		1
桁前補強	VG3−0754	1	
	VG3−0755		1
桁前カバー	VG3−0764	1	
	VG3−0765		1
桁中	VG3−0774	1	
	VG3−0775		1
桁中補強	VG3−0784	1	
	VG3−0785		1
桁後	VG3−5714	1	
	VG3−5713		1
	VG3−5712		1
ブレース	VG1−0814		1
	VG1−0824		1
	VG1−0834	1	
壁	LM3−1065	3	2
	LM3−1064	1	3
	LM3−1073	1	1
屋根	VG3−1003	6	10
	VG3−1012	6	10
引き戸	LM3−1761	1	1
	LM3−1762	1	1
パネル	VG3−1301		1
	VG3−1302		1
	VG3−1303		1
	VG3−1304		1
	VG3−1305		1
パネル	VG3−1311	1	
	VG3−1312	1	
	VG3−1313	1	
レール	VG3−1401	1	1
	VG3−1402	1	1
シャフト	VG3−1601		1
	VG3−1602		1
	VG3−1611	1	
部品	VG3−1701	1	1

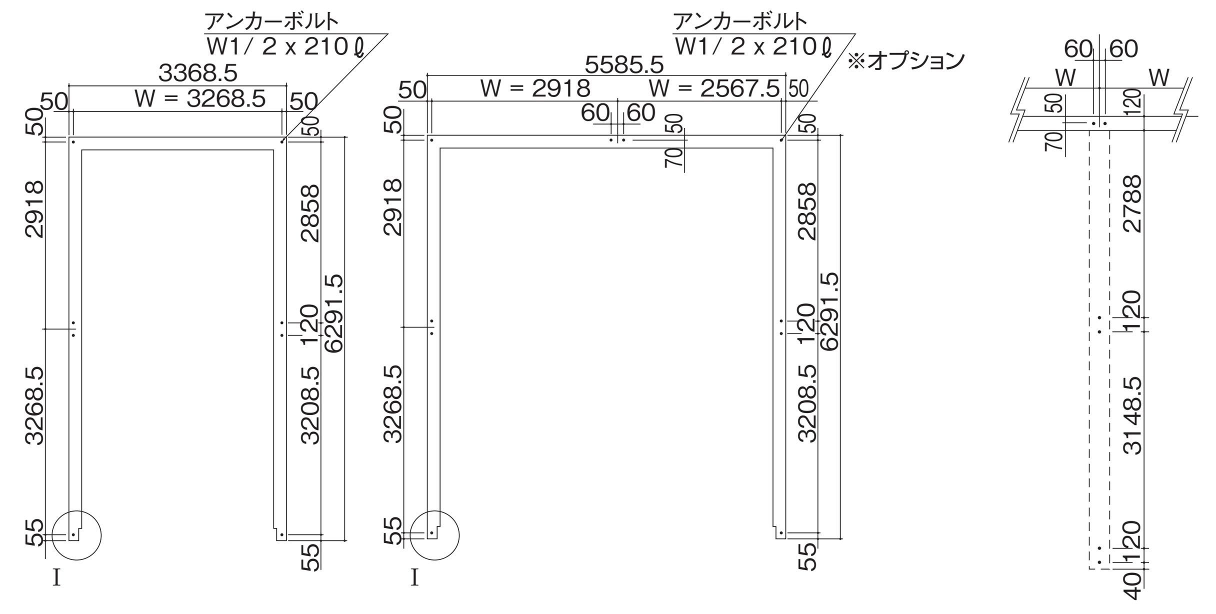
追加棟

梱包名	梱包番号	3362H	5562H
部品	VG3−0106	1	
	VG3−0107		1
柱	VG3−5252 +200	1	1
	VG3−0233		1
袖柱	VG3−0281	1	1
間柱	VG3−0342	1	
梁	VG3−0332		2
	VG3−0414	1	1
	VG3−5434		1
前後材	VG3−0513		1
	VG3−0514	1	
	VG3−0512		1
桁前	VG3−0744	1	
	VG3−0745		1
桁前補強	VG3−0754	1	
	VG3−0755		1
桁前カバー	VG3−0764	1	
	VG3−0765		1
桁中	VG3−0774	1	
	VG3−0775		1
桁中補強	VG3−0784	1	
	VG3−0785		1
桁後	VG3−5714	1	
	VG3−5713		1
	VG3−5712		1
ブレース	VG1−0814		1
	VG1−0824		1
	VG1−0834	1	
壁	LM3−1064	1	1
	LM3−1063		1
	LM3−1071	1	1
屋根	VG3−1003	6	10
	VG3−1012	6	10
パネル	VG3−1301		1
	VG3−1302		1
	VG3−1303		1
	VG3−1304		1
	VG3−1305		1
パネル	VG3−1311	1	
	VG3−1312	1	
	VG3−1313	1	
レール	VG3−1401	1	1
	VG3−1402	1	1
シャフト	VG3−1601		1
	VG3−1602		1
	VG3−1611	1	
部品	VG3−1701	1	1

※VGBO-8862Hは、5562Hと3362Hを連棟した組合せになります。

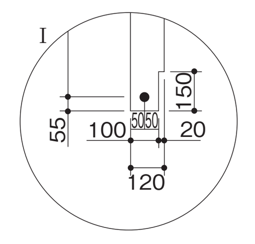
基礎施工例参考図

3362基礎図　　5562基礎図　　3362・5562連結部

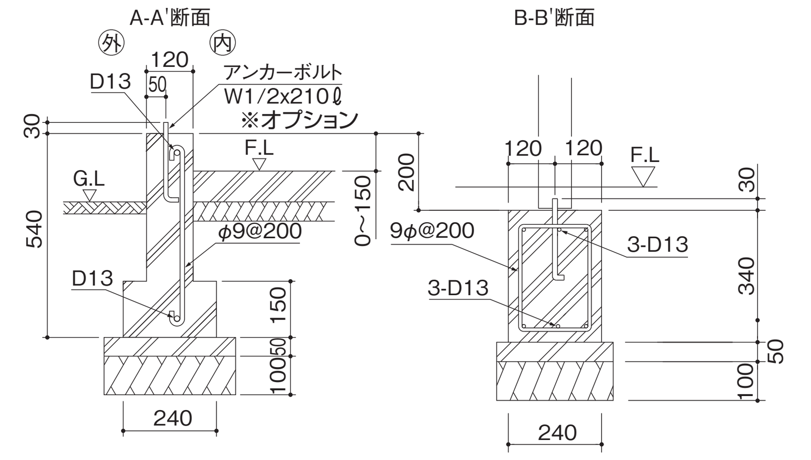


※VGAO-8862Hの基礎は、3362と5562の連棟タイプになります。

詳細図

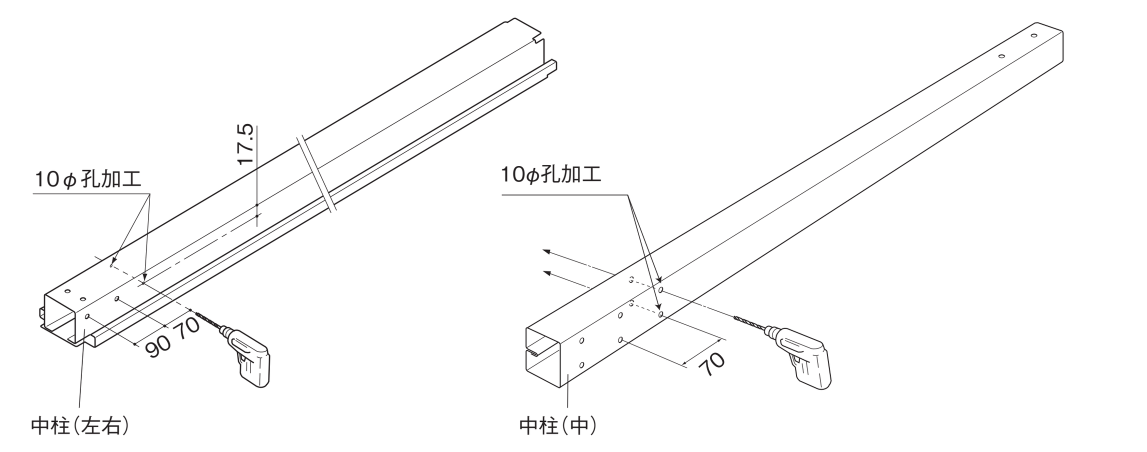


ラヴィージュ基礎断面参考図
地耐力 50kN/m²以上、コンクリート強度18N/mm²以上、基準風速34m/s、地表面粗度区分III
注1）地耐力が50kN/m²未満（30kN/m²以上）の場合、底盤幅を300mmとし、かつ補強筋を入れてください。
注2）寒冷地の場合、凍結深度等を考慮し、実情にあわせて設計してください。
注3）強風地、寒冷地などに設置する場合は、現地の実情にあわせて設計してください。



1　前工程

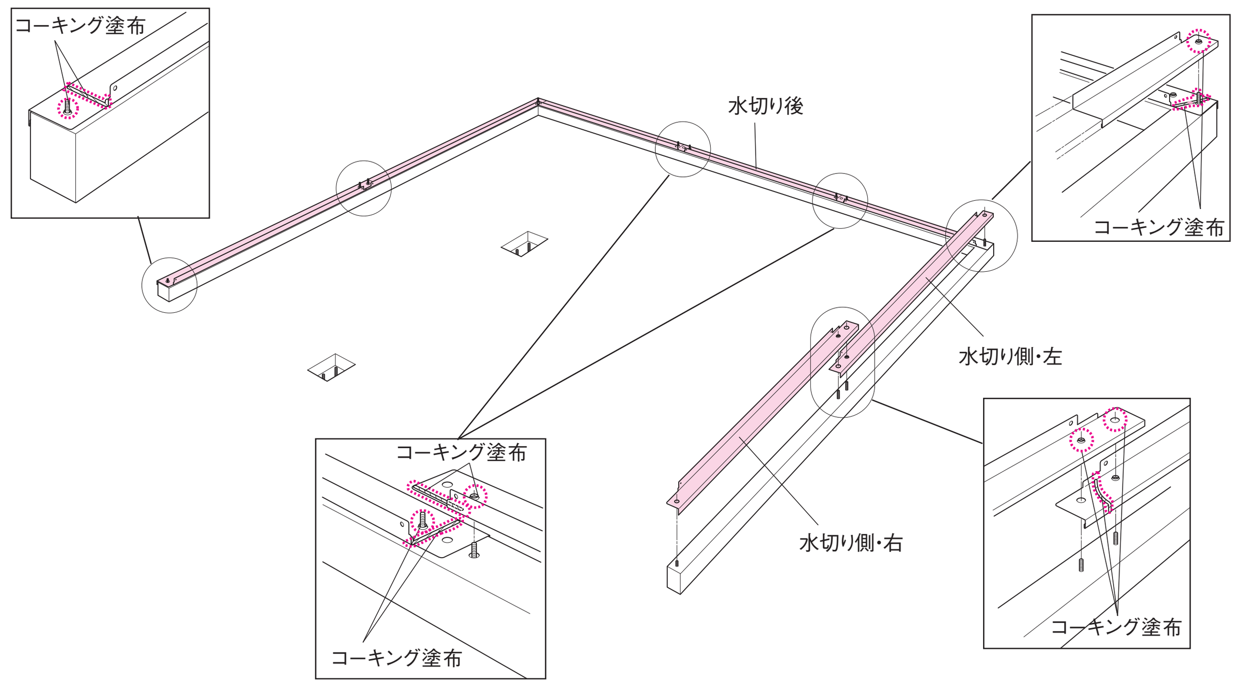
①ドリルで中柱（左右）に10φの孔加工します。（連棟の場合、中柱（中）も同様に孔加工してください。
※シャッタータイプと連棟する場合、シャッタータイプ側の孔加工は不要ですのでご注意ください。



2　水切り

①水切りをアンカーボルトにセットします。水切り後は、アンカーボルト用の孔をシールでふさいでいますので必要な孔のシールを切ってください。
②水切りの重ね部及びアンカーボルトの根本（◌部）をコーキングします。

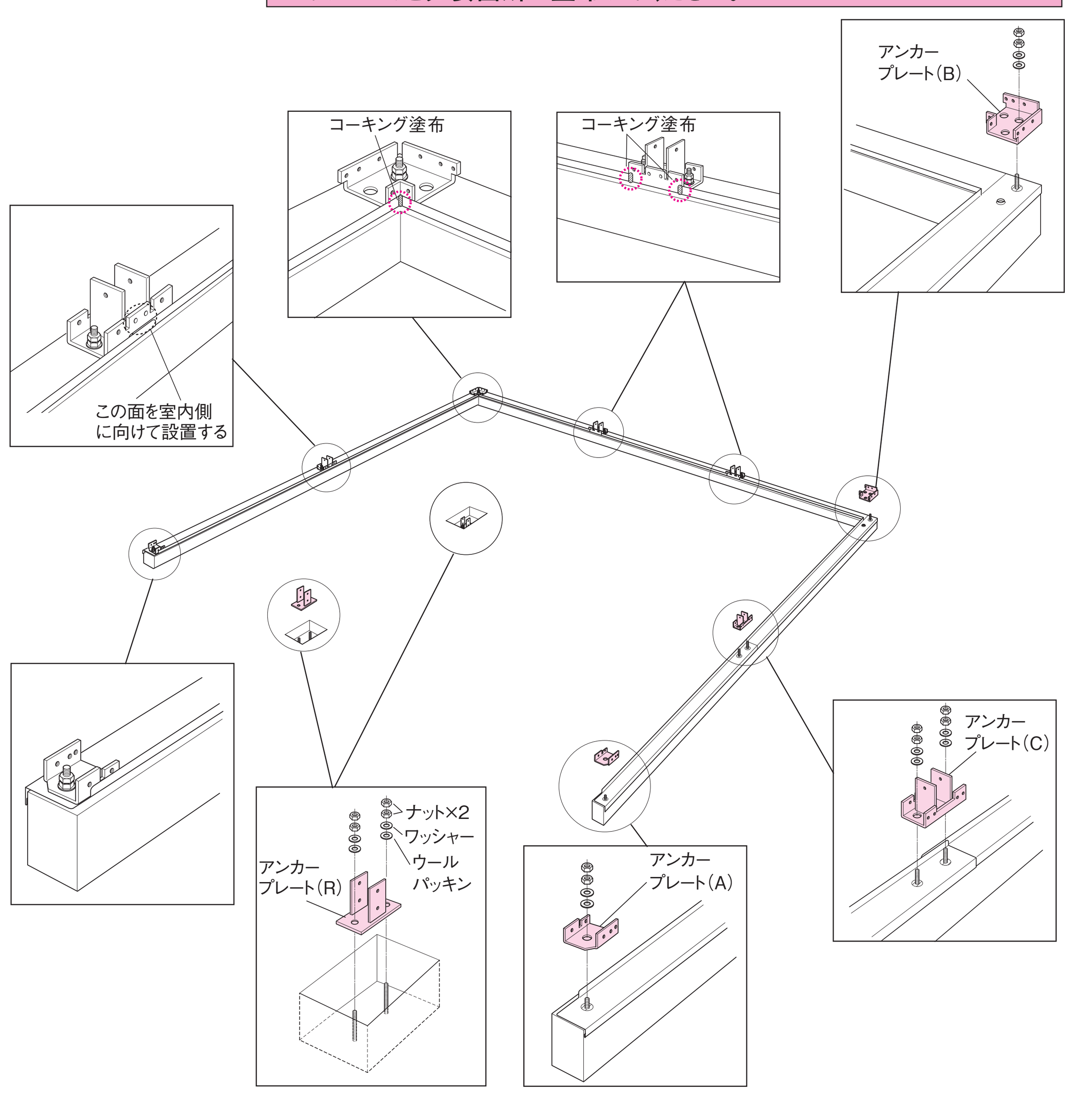
※コーキングが不十分ですと、雨水等が庫内に浸入する恐れがありますのでしっかりと必要箇所に塗布してください。



3　アンカープレート

①アンカープレートを取付けます。
（ウールパッキン、ワッシャー、ナット1/2″×2）
②◌部をコーキングします。

※コーキングが不十分ですと、雨水等が庫内に浸入する恐れがありますのでしっかりと必要箇所に塗布してください。



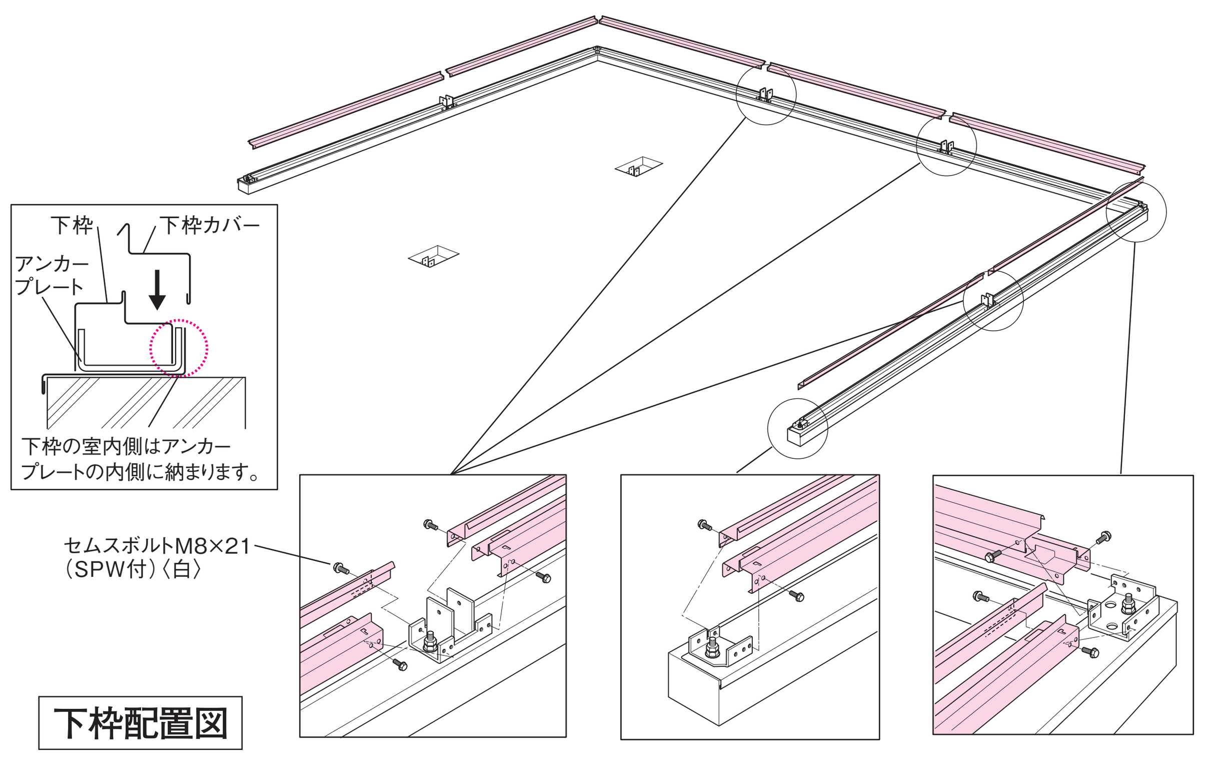
※アンカープレート（R）は部品梱包（追加棟用）に入っております。

注）アンカーボルトのモルタルが固まる前にガレージの組立てを行う場合、ウールパッキンの代わりにコーキングをしてください。また、市販のアンカーボルトでウールパッキンが付いていない場合、アンカーボルト周辺にコーキングをしてください。

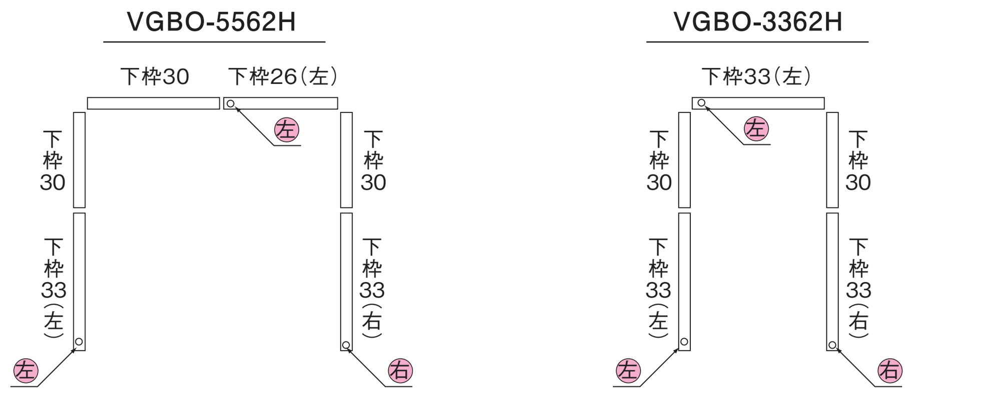
4　下枠

①下枠を配置し、室外側に仮止めします。
（セムスボルトM8×21(スプリングワッシャー付※以下SPW付とする)〈白〉）
②下枠カバーを取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉）

注）下枠33及び下枠26には左右がありますので注意してください。
（下図下枠配置図参照）



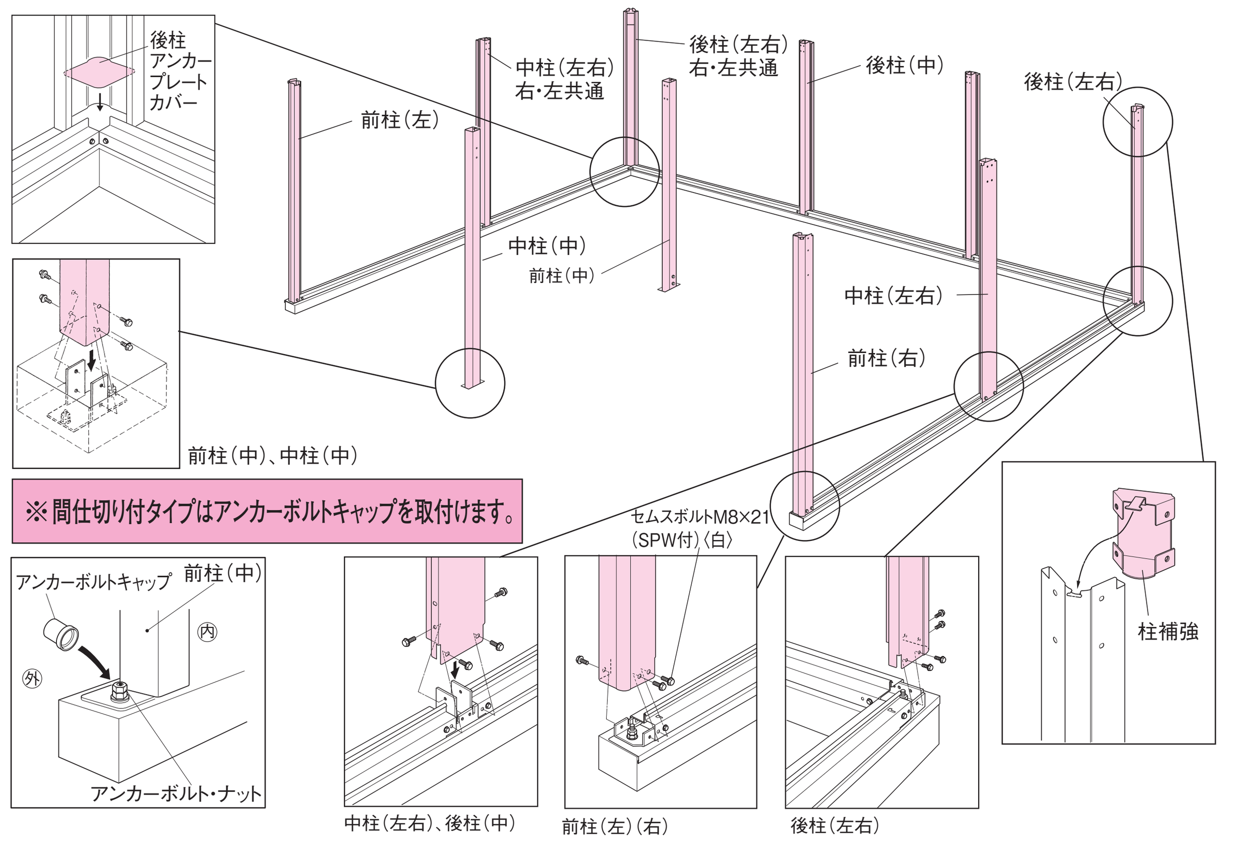
下枠配置図



5　柱

①柱をアンカープレートに取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉）
②柱を取り付けた後、下枠の外側のボルトを本締めします。
③後柱（左右）に柱補強を取付けます。
④後柱アンカープレートカバーを後部のアンカープレートの上にかぶせます。

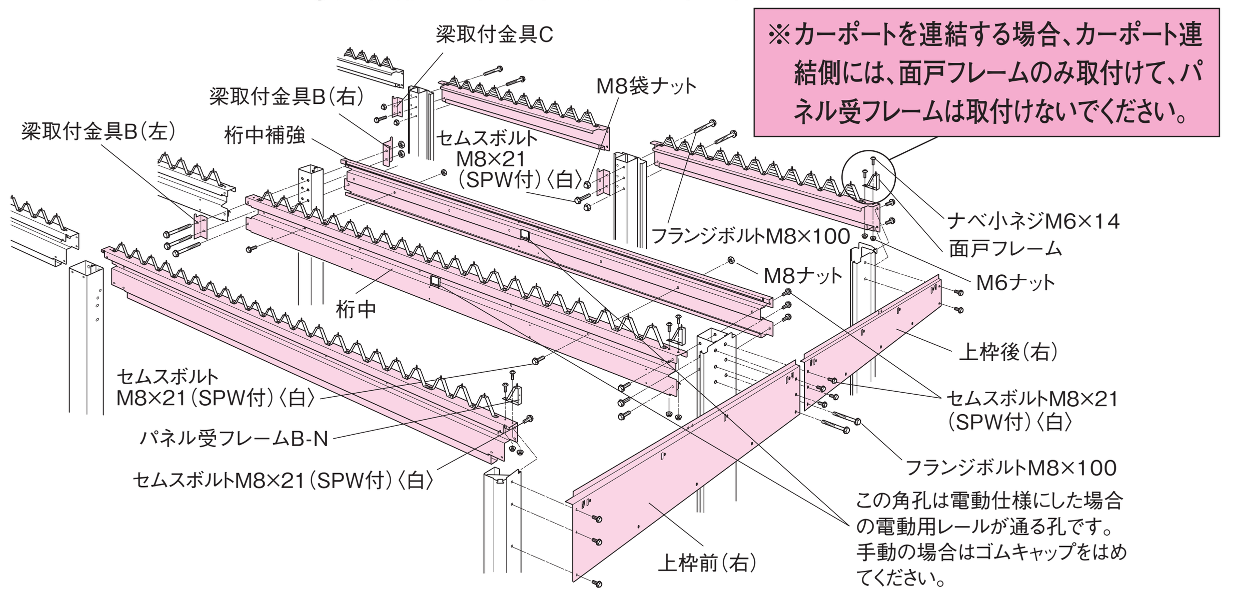
※「強風地向け補強材」を取付ける場合は、柱に孔加工が必要です。
設置場所にスペースが無い場合は、柱の左右に注意して先に加工してください。
加工については「強風地向け補強材」組立説明書（VG3-PB51）に記載しています。



6　上枠・桁

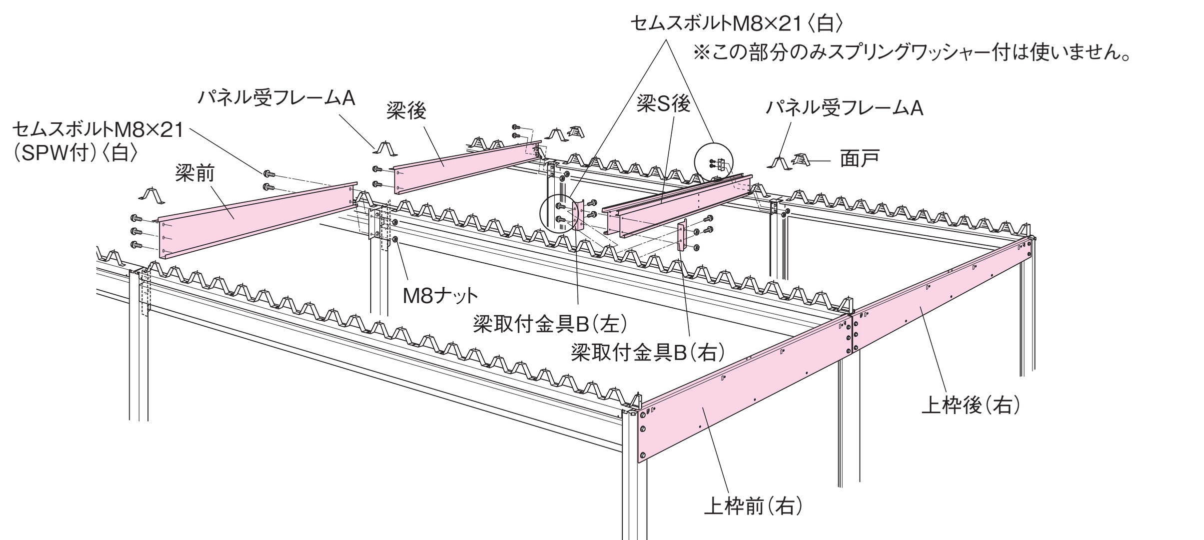
①上枠前右・左と上枠後右・左を取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉、フランジボルトM8×100〈白〉、M8ナット）
②桁前、桁中の両サイドに、パネル受フレームB-N、桁後の両サイドに面戸フレームを取付けます。（ナベ小ネジM6×14、M6ナット）
③桁前・後を柱にかぶせるように乗せ、取付けます。（フランジボルトM8×100、M8袋ナット）
④桁中と桁中補強をボルト止めします。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉、M8ナット）
⑤連結部は、梁取付金具を同時に取付けます。

※カーポートを連結する場合、カーポート連結側には、面戸フレームのみ取付けて、パネル受フレームは取付けないでください。



7 梁

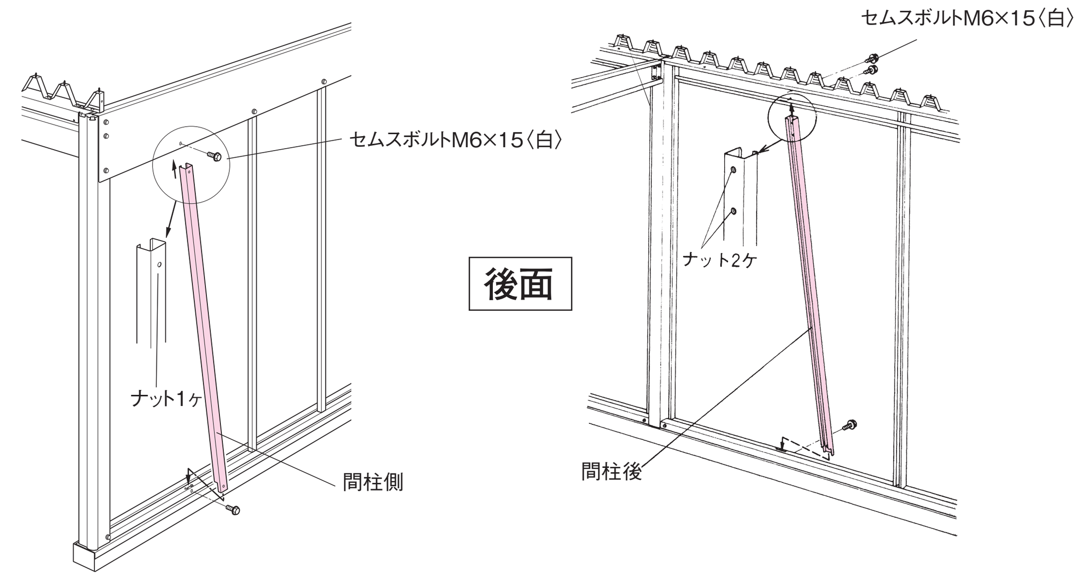
①梁前、梁後を取付けます。（セムスボルトM8×21（SPW付）〈白〉、M8ナット）
②5560Hタイプは、梁S･後を取付けます。（セムスボルトM8×21〈白〉）



8 間柱

①間柱を取付けます。（セムスボルトM6×15〈白〉）
※間柱には、側面用と後面用の2種類があり、上部にナットが1個付の間柱は側面に、2個付の間柱は、後面に取付けます。

※「強風地向け補強材」付の場合、間柱は専用間柱になります。（板厚1.6mm）
※「強風地向け補強材」付の場合、上枠補強材を先に上枠にのせて間柱と一緒にボルト固定してください。（「強風地向け補強材」組立説明書参照。）

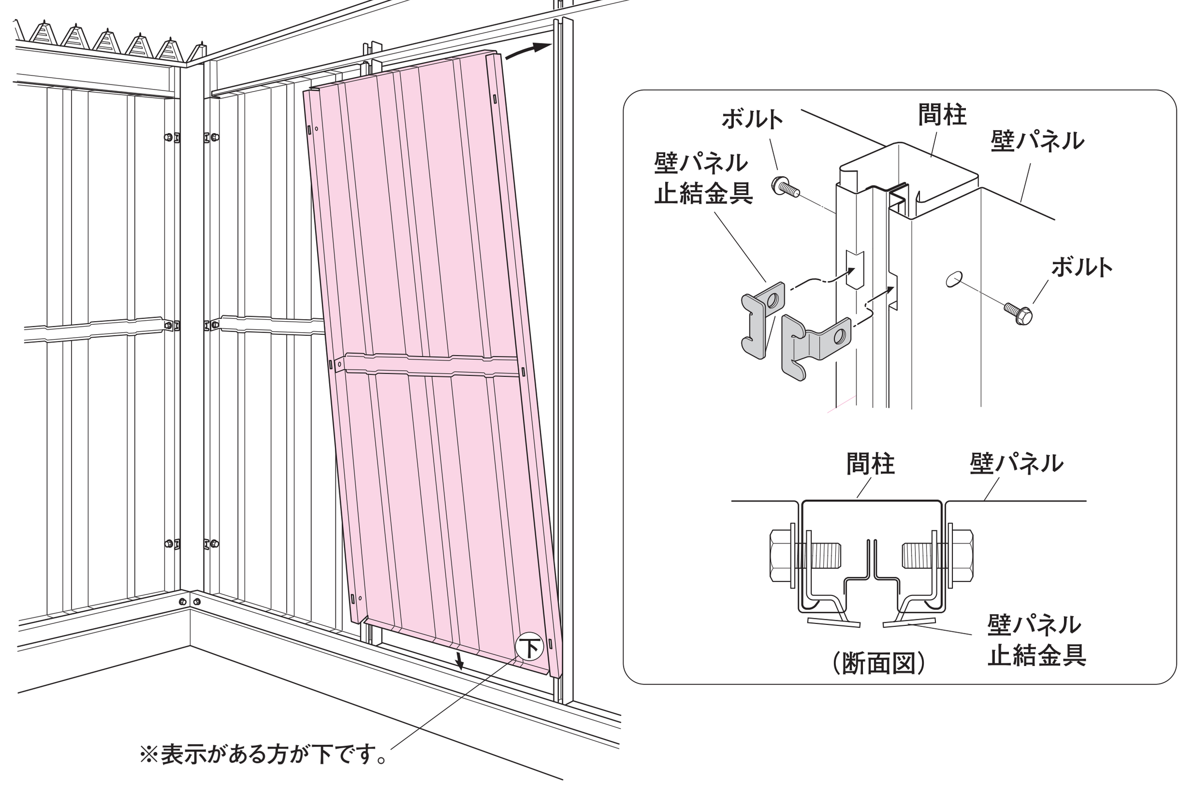


注）棚、引戸、補助ドア、サッシ窓のある場合は壁パネルの取付けと同時に行なってください。

9 壁パネル

①内側から壁パネルをはめ込み壁パネル止結金具で仮止メをします。（金具を挿入するだけで壁は倒れてきません）
②壁パネルをはめ込み終わったらボルト止メしてください。（セムスボルトM6×15白）

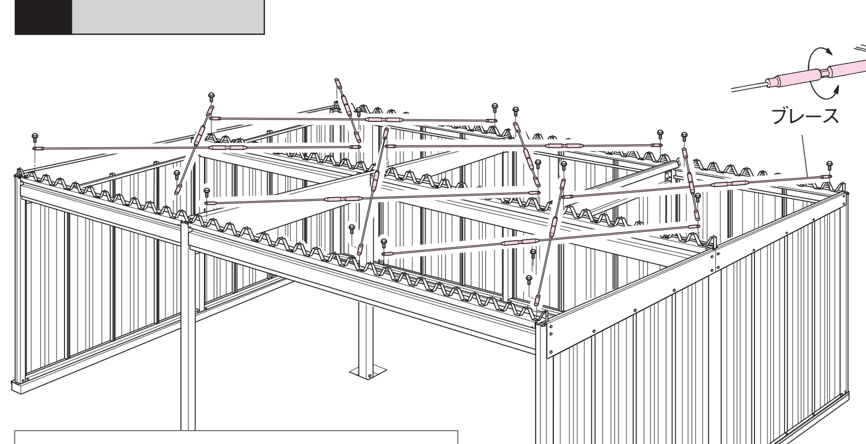
注）指で壁パネル止結金具を外側に押さえつけてボルト止メしてください。

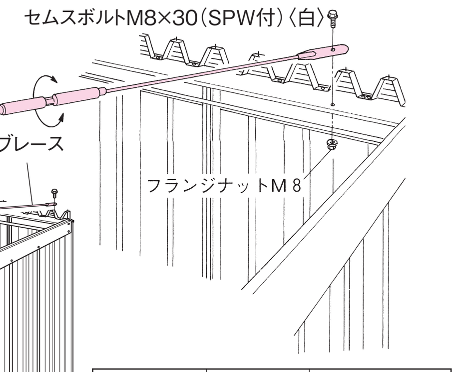


注）壁パネルと間柱に段差があると壁パネル止結金具が入りにくくなる場合があるので注意してください。

10 ブレース

①ブレースを取付けます。（セムスボルトM8×30（SPW付）〈白〉、フランジナットM8）
※調整は屋根を乗せた後行ないます。



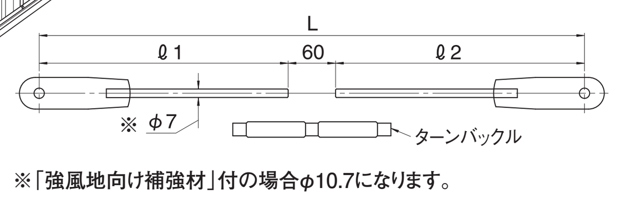


	使用ボルト	梱包
標準	M8×30（SPW付）	本体部品箱
強風地向け補強セット	M12×30（SPW付）	強風地向け補強セット梱包

※強風地向け補強材を取付ける場合ブレース取付け孔を12φに広げてください。

屋根ブレース組合せ表

使用機種		ブレース長さ(mm)		
		L	ℓ1	ℓ2
VGBO-8862	VGBO-3362	4,101	1,500	2,541
		4,358	1,300	2,998
	VGBO-5562	3,640	1,400	2,180
		3,862	1,400	2,402
		3,926	1,500	2,366
		4,133	1,300	2,773

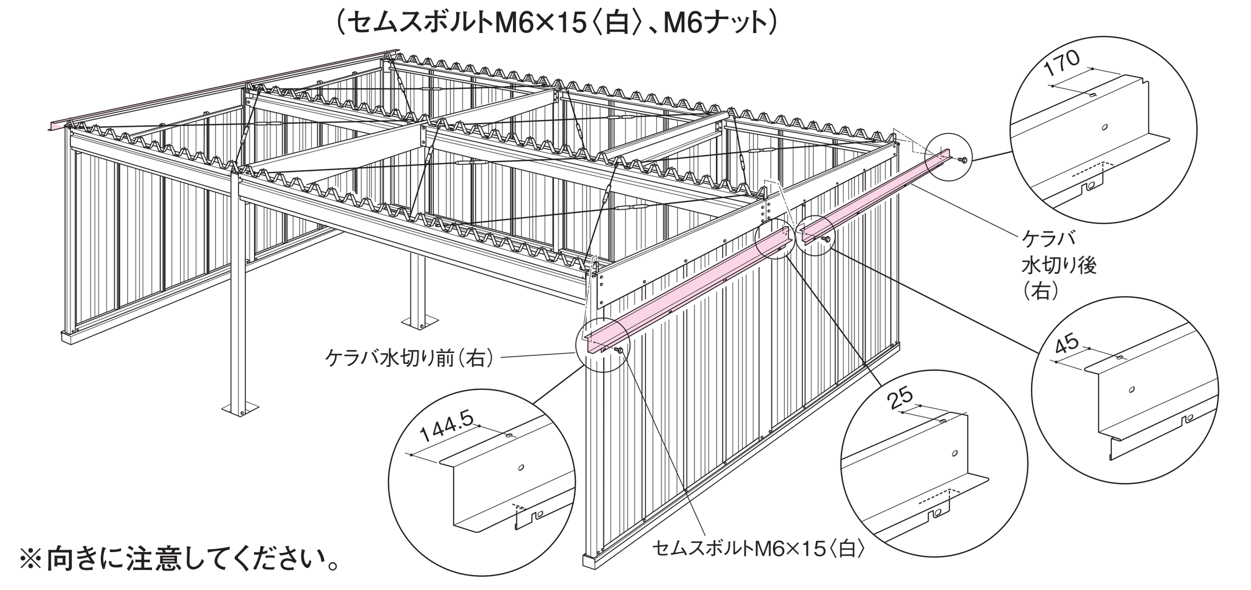


※「強風地向け補強材」付の場合φ10.7になります。

注）カーポートを連結する場合はこの後から施工してください。（組立説明書はカーポートの部品箱に入っています。）

11 ケラバ水切り

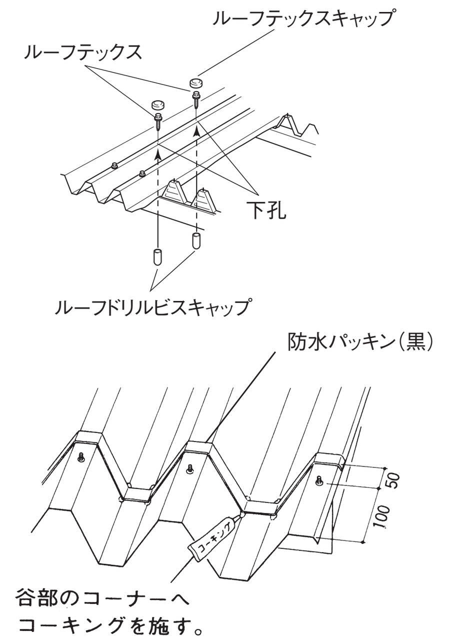
①ケラバ水切り後を取付けます。
②ケラバ水切り後の上にケラバ水切り前を取付けます。
※ケラバ水切りには、前後左右がありますので図の孔ピッチでご確認ください。
③上枠の角孔及び丸孔とズレが無いことを確認した後、前、中、後の3ヶ所をパネル受フレームと固定します。（セムスボルトM6×15〈白〉、M6ナット）

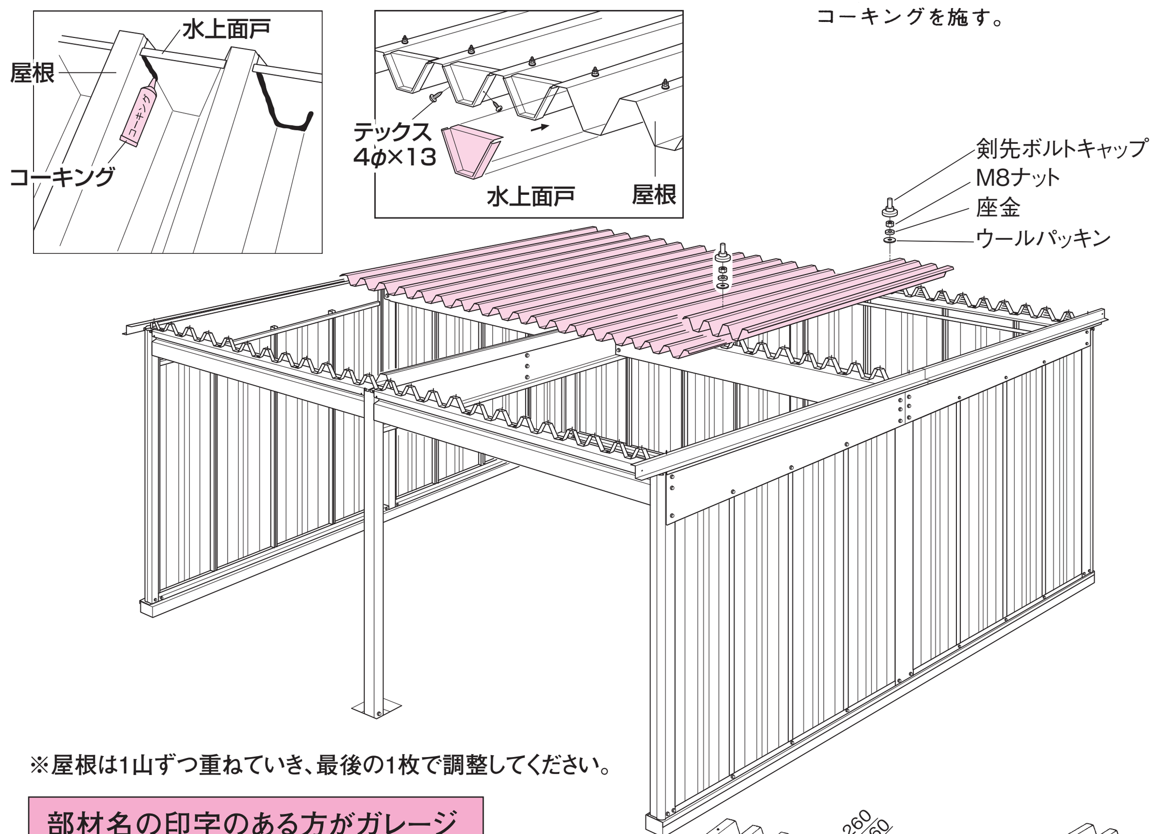


※向きに注意してください。

12 屋根

①屋根後を向かって左の後から乗せてください。
②後の屋根を乗せ終わったら防水パッキンを図のように貼付け、谷部のコーナーにはコーキング剤を施してください。
③屋根前を向かって左から乗せてください。屋根を乗せ終ったらターンバックルを調整し柱が垂直になるように調整してください。
④屋根の両端部を残し、ウールパッキン、山座を挿入し、固定します。（ナットM8）
⑤屋根を固定した後、重ね部分の中央部をフレーム間で2ヶ所ルーフテックスで固定し、剣先ボルトには剣先ボルトキャップ、ルーフテックスにはルーフテックスキャップをかぶせます。
⑥屋根下のルーフテックスのネジ部分にはルーフドリルビスキャップをかぶせます。
⑦屋根の先端に水上面戸をビス止めし、内側にコーキングをします。（テックス 4φ×13）

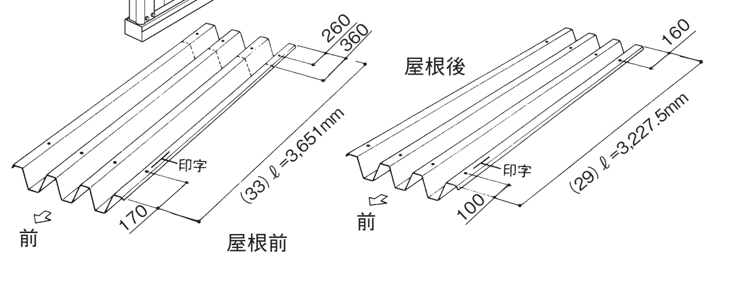




※屋根は1山ずつ重ねていき、最後の1枚で調整してください。

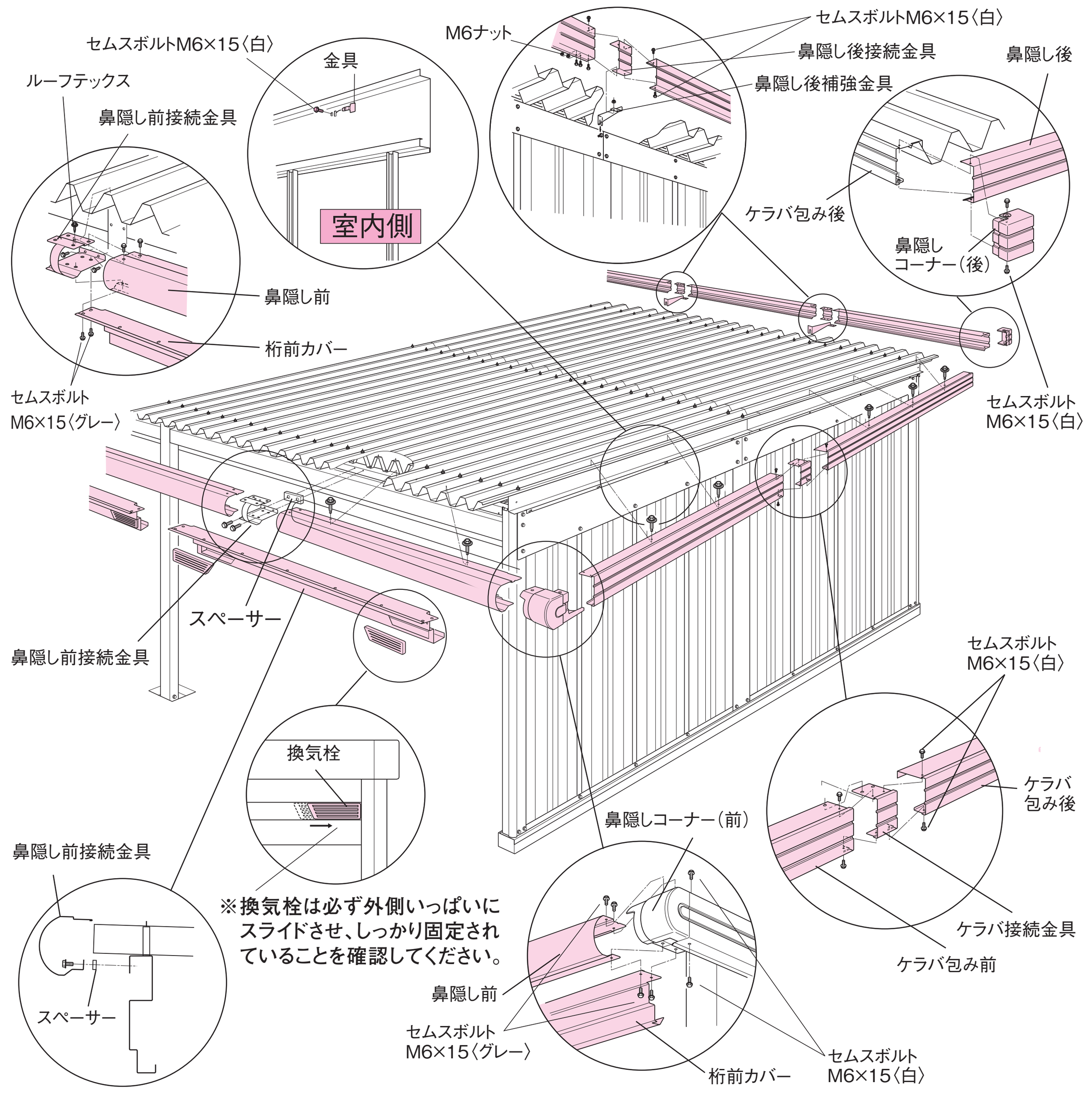
部材名の印字のある方がガレージの前側になります。

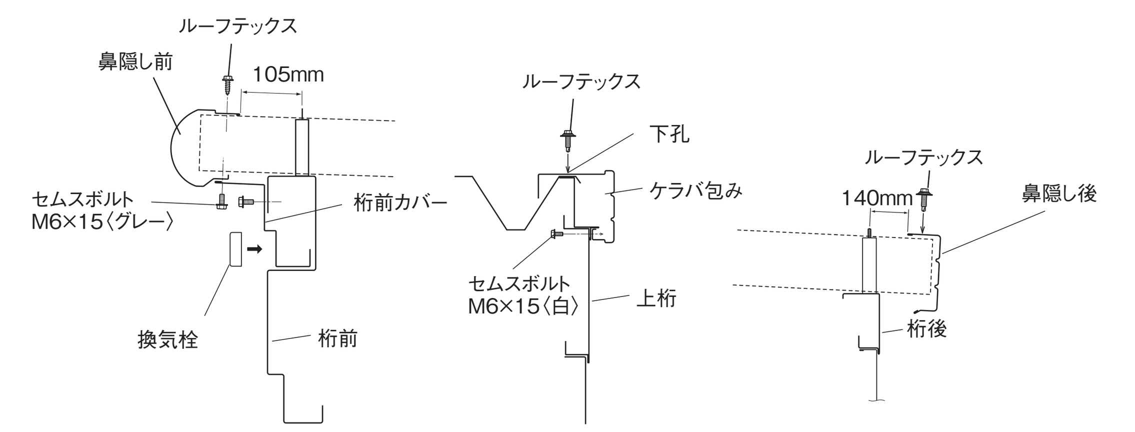
注）結露防止材付の場合結露防止材を貼っていない方が後側（重ね部）にくるように乗せてください。



13 ケラバ包み 鼻隠し

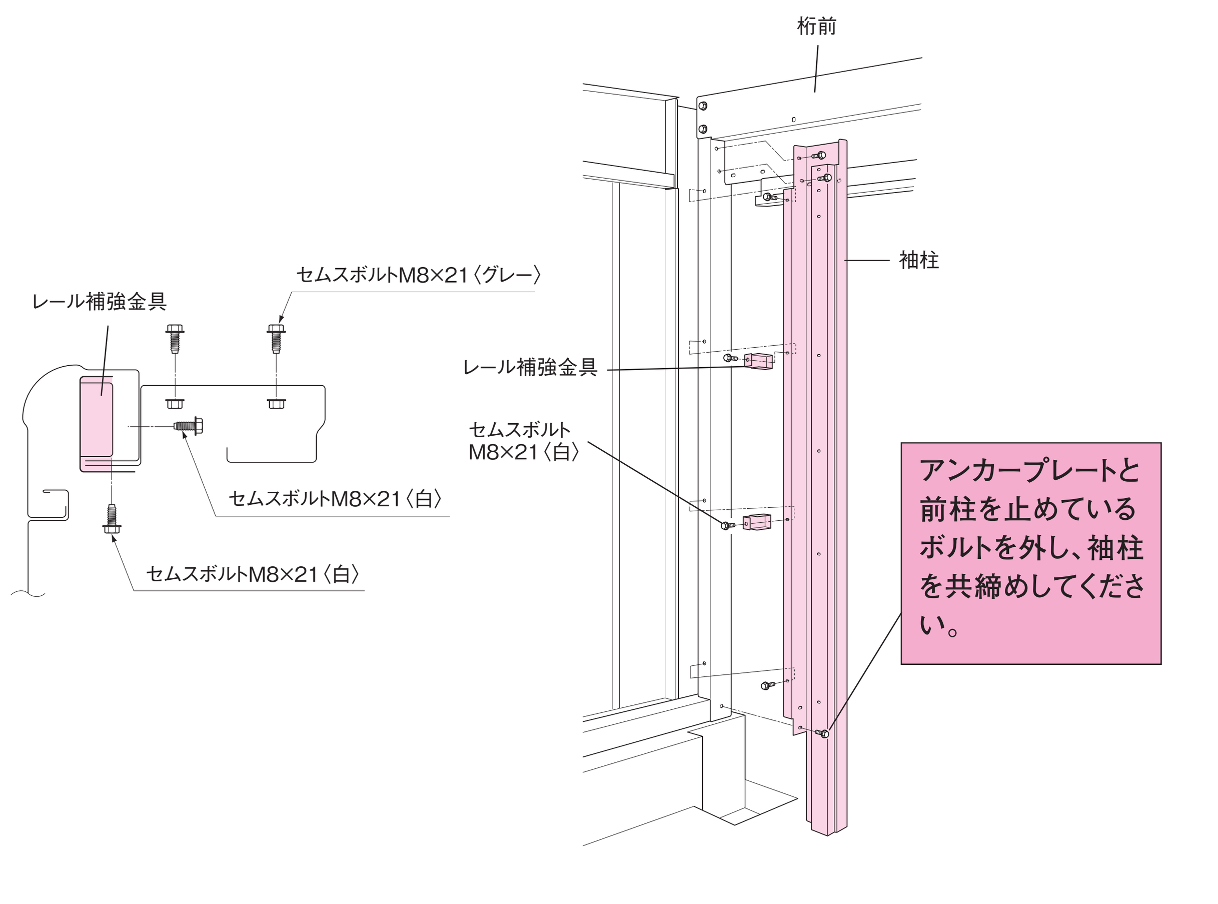
①ケラバ包み前にケラバ包み接続金具を取付けます。（セムスボルトM6×15〈白〉）
②ケラバ包み前を本体に取付けます。
③ケラバ包み後を本体に取付けます。
④室内側から金具で上枠とケラバを固定した後、上面をルーフテックスで固定します。（セムスボルトM6×15〈白〉）
⑤ケラバ前に鼻隠しコーナー（前）を取付けます。（セムスボルトM6×15〈白〉）
⑥5562Hタイプは、桁前中央に鼻隠し前接続金具とスペーサーを取付けます。
⑦鼻隠し前を取付けます。（セムスボルトM6×15〈グレー〉、ルーフテックス）
⑧桁前カバーを取付け、換気栓も取付けます。（セムスボルトM6×15〈グレー〉）
⑨鼻隠し後を取付けます。（ルーフテックス）
⑩鼻隠しコーナー（後）を取付けます。（セムスボルトM6×15〈白〉、ルーフテックス）
⑪ルーフテックスの頭にルーフテックスキャップをはめ込みます。





14 袖 柱

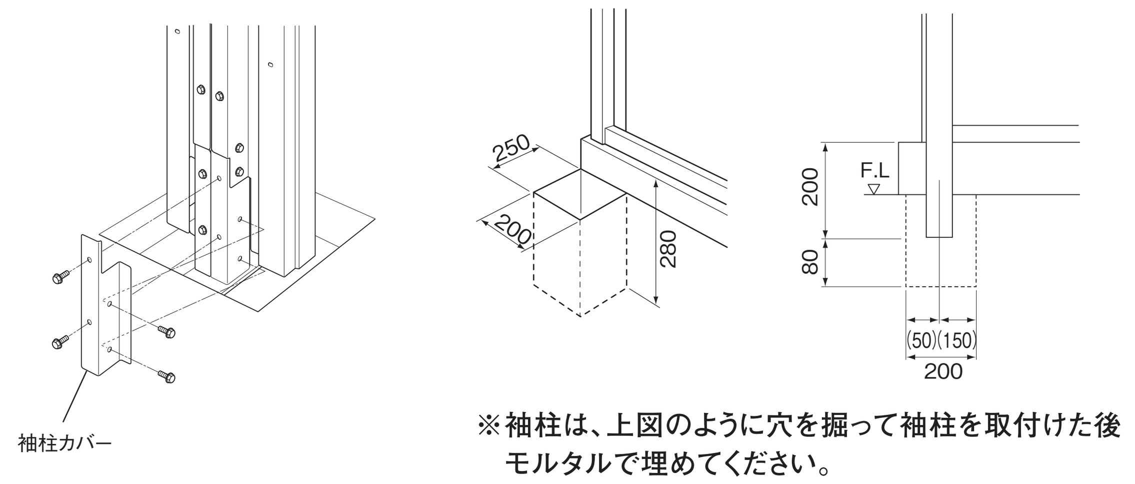
①袖柱を前柱に取付けます。（セムスボルトM6×21（SPW付）〈白〉）
※前柱（左右）に取付ける場合、中央2ヶ所にレール補強金具も取付けてください。
②袖柱を桁前に取付けます。（セムスボルトM8×21〈グレー〉、M8ナット）



アンカープレートと前柱を止めているボルトを外し、袖柱を共締めしてください。

③連結部の下部には袖柱カバーを取付けます。

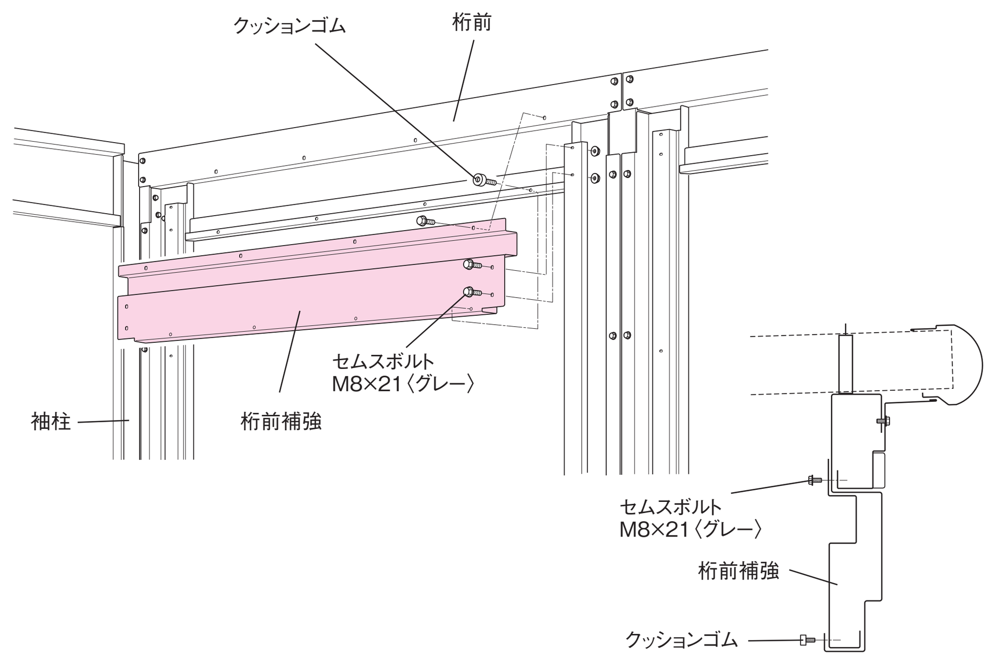
※間仕切り（オプション）付の場合は不要です。



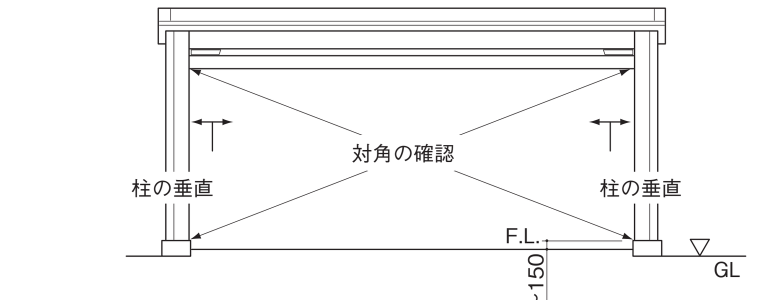
※袖柱は、上図のように穴を掘って袖柱を取付けた後モルタルで埋めてください。

15 桁前補強

①桁前補強を桁前に取付けます。（セムスボルトM8×21〈グレー〉、クッションゴム）
②桁前補強を袖柱に取付けます。（セムスボルトM8×21〈グレー〉、M8ナット）



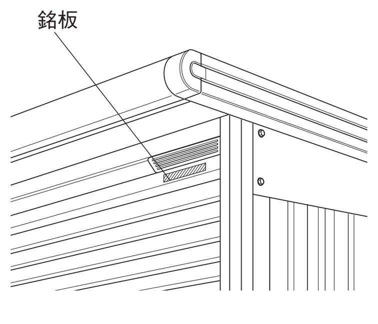
16 完 成



●本体組立後、開口部の巾、高さ、柱の垂直、開口部の対角寸法等を確認してください。
●別途工事のオーバースライダー工事の前に土間工事を済ませておいてください。
オーバースライダーの高さ方向の調整は、基礎の上端より下へ0～150mmの範囲内の調整が可能ですので、その範囲で土間高さを調整してください。
土間工事がオーバースライダー工事の後になりますと再度鍵の調整の必要があります。

最後に、ボルトのゆるみがないかどうかもう一度確認し、
前柱中、中柱中の基礎部を、モルタルで埋めてください。
テックス等の切粉は必ず取り除いてください。
下図の位置に銘板を貼付けてください。
鍵は錠の裏側にあります。お客様にお渡しください。
本書と取扱説明書はお客様にお渡しください。

銘板貼付位置



注）オーバースライダーは後日、後日別途工事となりますので、オーバースライダー用の梱包は、開梱せずに、雨に濡れない場所に保管しておいてください。

この組立説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています

お客様へ
組立説明書と取扱説明書は大切に保管してください。

施工業者の方へ
取扱説明書は大切な書類です。本書と取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

Raviege
（オーバースライダータイプ）

ヨドコウ
淀川製鋼

（2010.11月制作）